



2025年3月31日

各 位

会 社 名 日本システム技術株式会社  
代 表 者 の 代表取締役社長 平林 武昭  
役 職 氏 名  
(コード番号 4323 東証プライム市場)  
問い合わせ先 取締役上席執行役員 平林 卓  
( T E L 06-4560-1000)

## グループビジョン「JAST VISION 2035」に関するお知らせ

当社グループは、2035年度を目標年度とする「JAST VISION 2035」を策定しましたので、お知らせいたします。

記

### 長期ビジョン「JAST VISION 2035」策定の背景

2023年に創業50周年を迎えた当社は、2024年を第2創業のスタートと位置づけました。そして、企業活動の原点としてきた企業理念・経営理念をもとに、長期的に目指すあるべき姿として「JAST VISION 2035」を策定いたしました。

当ビジョンをもとに、2026年度以降を対象とする新中期経営計画の策定を進めてまいります。

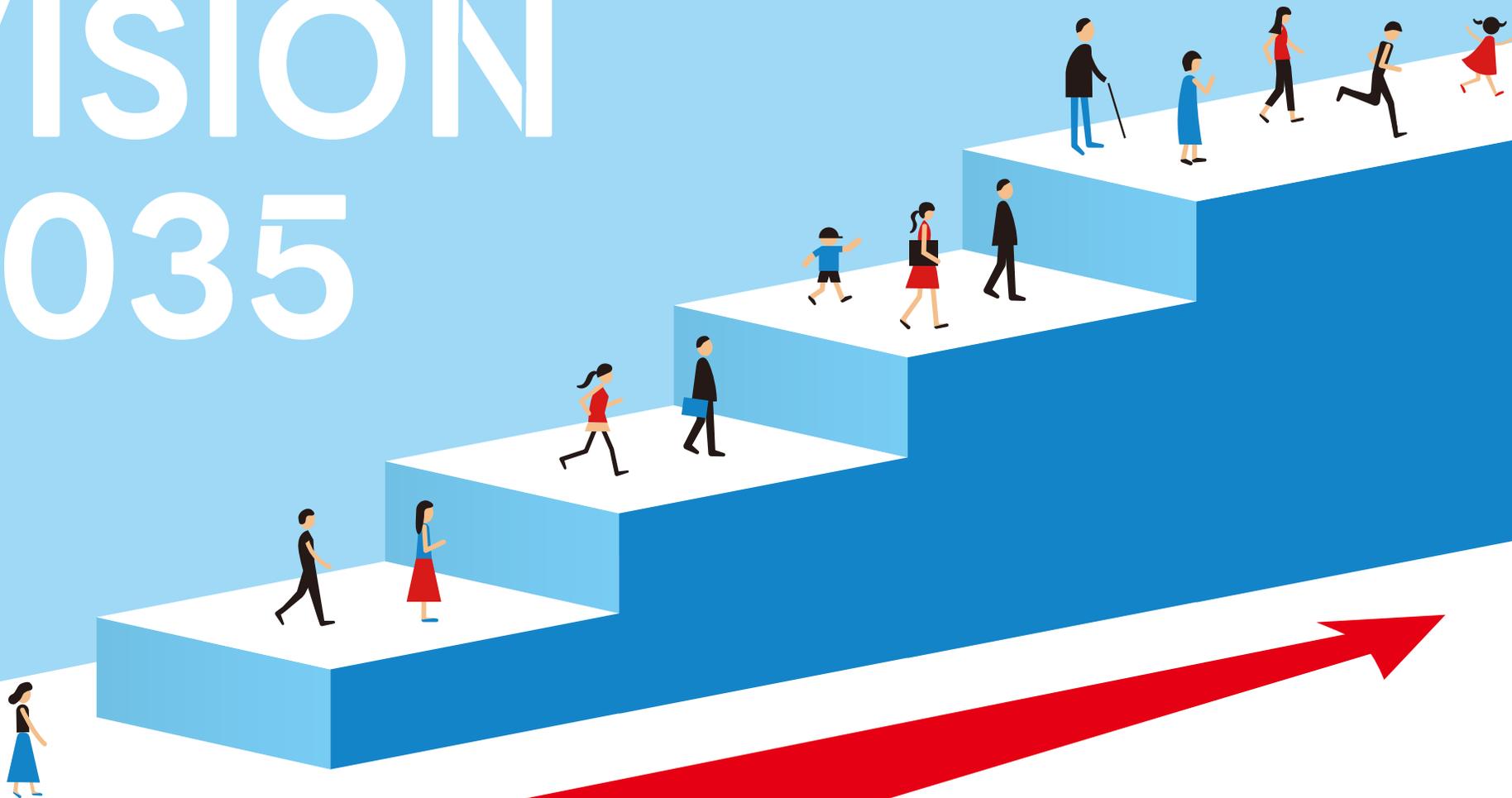
### 添付資料

「JAST VISION 2035」

詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

以 上

# JAST VISION 2035



日本システム技術株式会社  
Japan System Techniques Co., Ltd.

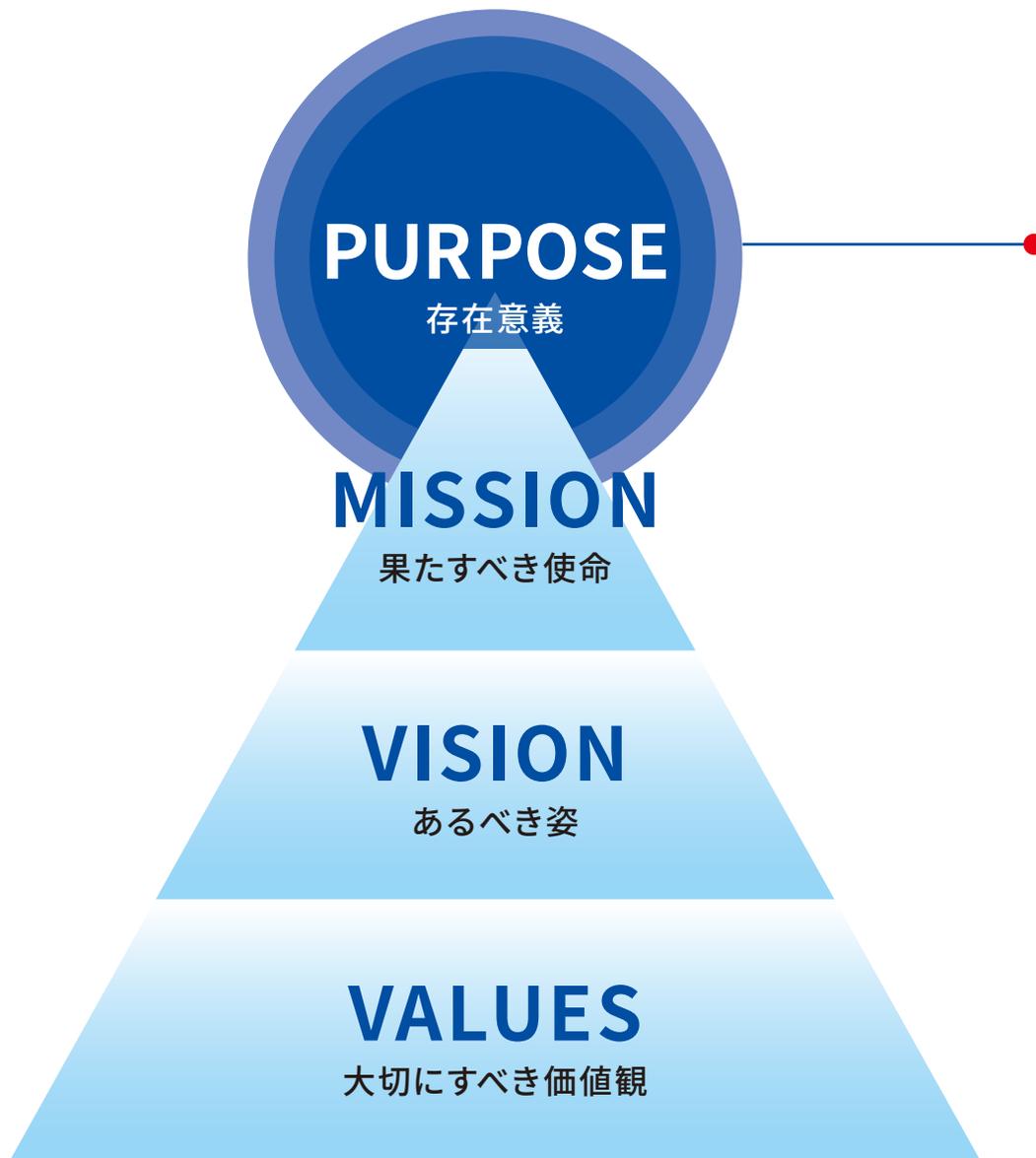


## 《人間力=ハート》を最大限に発揮し、 誰もが知る課題解決企業へ

「技術力」と「実績」に加え、共有された「企業理念」—これがJASTグループ最大の経営資源であり、企業理念に裏付けられた「人間力」こそが最大の強みです。私たちは、創業来50年で培ったこのアイデンティティを原動力に、次の50年の発展に向けたVISIONを描きました。

社会課題の急速な変化により先行きが不透明な時代だからこそ、JASTグループの社員一人ひとりが人間力を発揮し、全てのお客様とともに、ひたむきに課題解決へ取り組むことで、社会に必要不可欠な企業として発展してまいります。

# PURPOSE



## 情報化を創造し、 提供することにより、 社会に貢献する

創業者平林武昭が掲げた企業理念には、JASTグループが社会的貢献を果たし、世のため人のための企業として持続・発展する、という志が込められています。JASTの50年の歴史は、この企業理念のもとお客様・社会に寄り添い、技術を磨くことで歩んできた実績と信頼の歴史です。

2035年にむけたVISION(あるべき姿)を策定するにあたり、JASTグループのアイデンティティとして、企業理念の持続的な実践の基礎となるMISSION(使命)とVALUES(価値観)を定義しました。

# MISSION・VISION・VALUES

## MISSION

果たすべき使命

### ● 社会の課題解決にひたむきに取り組む

JASTグループは、社会・企業双方の持続的成長を果たすべく、“社会の課題解決にひたむきに取り組む”をMISSIONとして掲げます。「ひたむき」の一言には、お客様に常に寄り添い、理解を深め、課題解決を提供するという「誠実な顧客志向」と、課題解決を可能とする技術革新への「絶え間ない努力」を、徹底する思いを込めております。

## VISION

あるべき姿

### ● 誰もが知る課題解決企業へ

創業来50年、JASTグループはお客様へ寄り添い課題を解決してきましたが、企業理念の実現には、より一層、社会の持続的成長へ貢献する必要性を認識しています。

次の50年の成長に向けた明確なビジョン“誰もが知る課題解決企業へ”を掲げ、より多くの社会課題を”ひたむき”に解決していきます。人々がJASTの社会を変革する力を知り、社会に必要不可欠な企業として認知されることを目指します。

## VALUES

大切にすべき価値観

# MISSION・VISION・VALUES

## MISSION

果たすべき使命

## VISION

あるべき姿

## VALUES

大切にすべき価値観

### 経営理念

お客様・社員・株主・社会の「四方よし」の実現には、企業・社員の社格・人格を高めることが最も重要であると、JASTは考えております。次の50年においても、人づくりを最も大切にする経営方針のもと、グループの全員が志をひとつに勇気をもって行動し、社会に価値と感化を提供するため、経営理念の浸透・実践を続けてまいります。

### JAST DNA

JASTグループの社員は、「困ったお客様を見逃ごせない思い」「感謝に対する喜び」「ソフトウェア開発・技術革新そのものへの楽しさ」をモチベーションに、「様々な挑戦をいとわない姿勢」「良心にもとづく行動」を体現してきました。経営理念の浸透と人づくりの徹底により共有されたこれらのJASTらしさを、次の50年に向けて継承していくべきDNAとして大切にしていきます。

### 不易流行

「不易流行」はJASTグループの経営思想です。確固とした企業哲学・企業姿勢などの変わらぬ原理(不易)を受け入れる冷静さと、時代性に応じて変えるべきもの(流行)を変えていく勇気、その二つを両輪に、VISIONの実行を推進します。

# 自社の置かれている環境

## 外部環境

### 加速度的な社会課題の進行と 革新技術に対する積極的対応の必要性の高まり



#### ≫ 社会課題の進行

- 超少子高齢化による労働力不足や地域機能不全・格差拡大と、社会課題解決要請の高まり
- 地球温暖化、生物多様性危機、世界的食料不足などに対するグリーンイノベーションへの社会要請の高まり



#### ≫ 革新技術の発展

- 生成AIの発展によるシンギュラリティの到来
- ブロックチェーン・通信技術・ロボティクス・IoTなど産業構造を変革する技術の実用化
- 先端IT人材の不足、従来型IT人材の余剰

## 内部環境

### 創業来50年で培った経営資源



#### ≫ 企業文化・事業環境

- 理念先行経営による理念の浸透と実行力
- 完全独立系による自由な挑戦環境



#### ≫ 事業基盤

- 自社ブランド製品の高いシェア
- SIビジネスの高い開発力・動員力



#### ≫ 人材

- 高い技術力と人間力
- 顧客第一で寄り添う姿勢



#### ≫ 財務基盤

- 質実剛健な経営による、良好・健全な自己資産と手元流動性
- 多彩な事業構成による安定性



“ JAST VISION 2035 ”

# めざすポジショニングと変革の方向性



## “誰もが知る課題解決企業になる”

持続可能な社会の実現に貢献する

### めざすポジショニング

#### ≫ 社会課題解決の場に常に存在し、課題解決に不可欠な企業としてのポジションを確立する

- 世界中の人々に、課題を解決するためのサービスを直接提供する
- 実際の課題に直面する人々とのコミュニケーションに基づく、ニッチな課題も解決するIT技術をコアとしたサービスを提供することで、特定分野のトップシェアを多く獲得する
- 先進技術・市場知見をもつ企業・団体や行政・自治体など多様なプレイヤーとの共創関係を構築し、課題解決をリードする



### 変革の方向性

#### ≫ 全グループ・全事業一体で変革を推進する

- 全グループ・全事業の人材・技術・知見を発揮し、あるべき姿を実現するために、ダイナミックな組織組成・改編や先鋭人材の獲得・既存社員のリスクリングをグループ全体で実行する

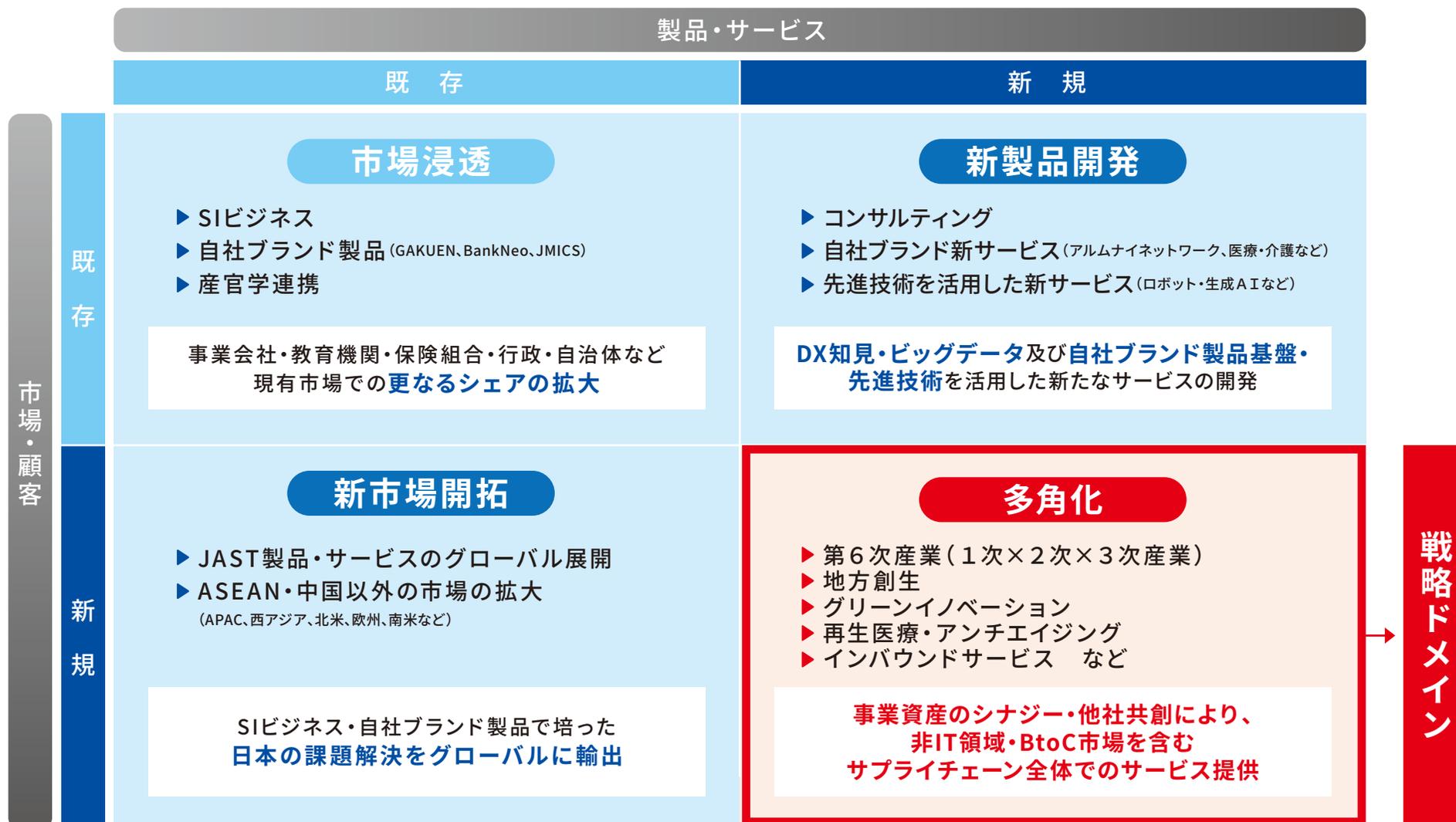
#### ≫ 経営基盤の強化により成長を促進する

- 人的資本、知的資本への積極投資により事業成長を促進する
- 経営資源の最大活用と無駄の排除で、高い資本効率性での価値創出を行う



# 戦略ドメインの定義

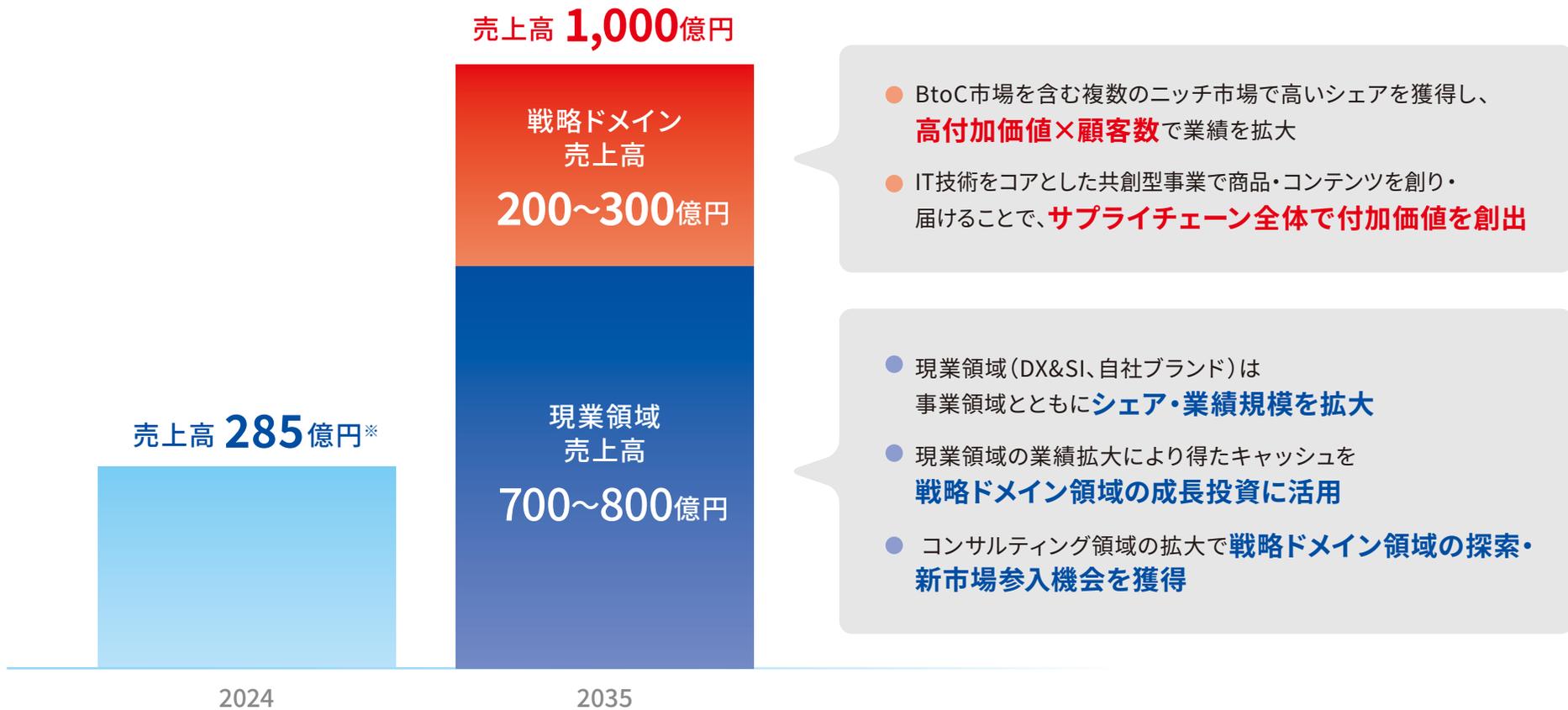
広範な領域で多様なお客様に課題解決を提供するため、多角化領域を**戦略ドメイン**として位置付ける



# 目標とする事業規模

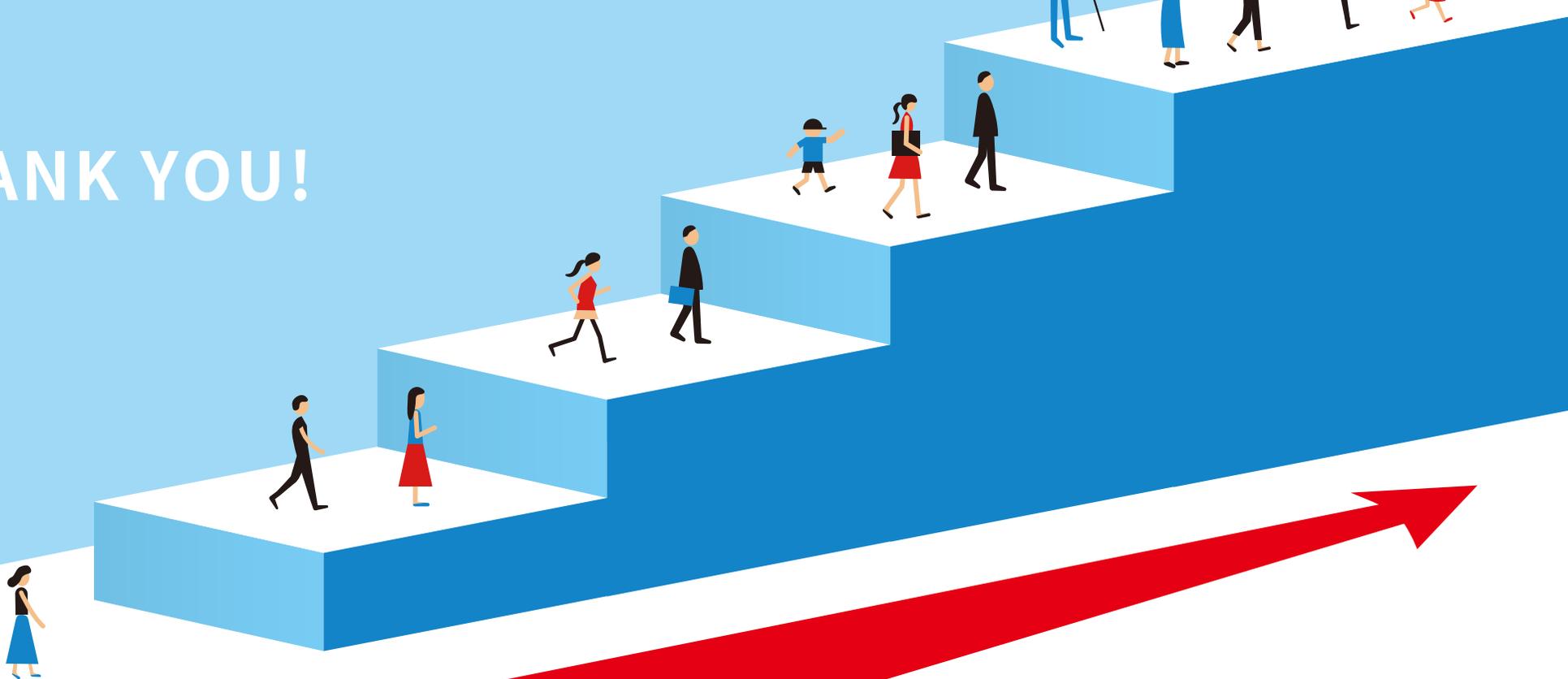
成長戦略により**2035年JASTグループ連結売上高 1,000億円**を実現する

ビジョン達成の指標として**戦略ドメインの連結売上高 200~300億円**を目指す



※2025年3月期の通期連結業績予想

THANK YOU!



<https://www.jast.jp/>